

北海道

水産県1、2位がPR

鹿児島

日本の農林水産県として集まった。北海道から1位の北海道と2位の鹿児島県は5、6日の両日、東京・東池袋の池袋サンシャインシティで「食の大商談会」を開いた。

残念がりながらも、「さ」を手掛けた同社が、独自の製法を加味して作ったアイテム。土井孝謙営業課長は、「手作りの感があって、身が厚いが衣は薄く、食べ応えがある製品」と、セールスポイントを紹介していた。

北海道・根室の㈱兼田のおかずとして人気が高

鹿兒島・南さつま市の㈱笠沙恵比寿は、南さつま市の支援を受けて開発したタカエビ(別名ヒゲナガエビ)のつけ揚げの試食を振る舞った。タカエビは鹿兒島近海で獲れる深海エビで、アマエビより甘い味に定評がある。刺身で食べるのがいちばんのエビだが、距離のある東京に持ち込むにあたって「つけ揚げ」の製法を編み出した。森忠料理長は「ほかのエビに比べて皮が軟らかく、口の中に残らない」と、優れた食感をアピールしていた。

# 東京・池袋で「食の大商談会」

## 消費者向け物産展も初開催



兼由のブース付近。招待制のため、担当者とのやりとりは具体的な話で盛り上がった

なお、今回の商談会が始まってから30周年になったことを記念して7日、出展者による消費者向け物産展「北海道・九州 食の大物産展」が初めて開かれ、家族連れで終日賑わった。

新日本スーパーマーケット協会が企画・運営した完全招待制のイベントで、日本列島の北端と南端から、魅力的な産品が